進路だより

秋田県立秋田きらり支援学校
第８号
平成３０年２月９日発行

中学部の進路学習

中学部では、「進路」はそれぞれの生徒が進む道（路）と考え、自分たち（本人・家庭）で考え、決めて、進むものと捉えています。自分で考え、決めて、進むため、「進路選択」をする際はどんな進路先があり、自分にはどんな進路が適しているかを知る必要があります。学校は選択するための情報を提供し、必要な体験の場を設定します（進路学習、職場体験、高等部見学、高等学校見学、教育相談等）。保護者は生徒と相談し、一緒に考えてください。そして「進路決定」では、進路を自分で決定し、進むための準備を行います。保護者は、決定した進路にスムーズに進めるよう応援、協力していただき、学校は進路に向かうための準備を整えます（進路指導、受検対応、手続きの説明等）。

この考えに基づき、中学部１組では、生活単元学習の中で、自分の生い立ちを調べや得意なことを通して今の自分について知り、将来の姿を考えることについて取り組みます。

日常生活の指導、総合的な学習の時間、作業学習においても高等部や卒業後の生活で必要な力を身に付けるための取組を行っています。ここでは、各学年の生活単元学習の内容や作業学習での取組を紹介します。

＜中学部進路について（保護者版）より＞

【１年生】

○「自分を知ろう」自分の生い立ち調べ、得意なこと、苦手なこと
○「身近な人を知ろう」：厨房で働く人の見学・インタビュー、
　　高等部作業学習見学、技師さんの仕事見学、仕事体験
○「１年を振り返ろう」：自分の成長を考える

厨房で働く人の見学

【２年生】

○校外学習、公共施設の利用、
　マナーの学習
○職場見学、職場体験

潟上天王つくし苑の見学

【３年生】

○「かがやきの達人」
○職場見学、
　職場体験

高等部体験学習

【作業学習】

○作業強調週間
○いぶきの里へ作業製品の納品

作業強調週間

いぶきの里へ作業製品納品

★今年度の学部ごとの記事の連載は、今号で最後になります★

小学部は「社会との関わり」について、**中学部は「複数の施設を利用している例」**について、**高等部は「秋田市新成人のつどい」**についてです。他の学部の記事が見たい方には差し上げますので、学級担任までお知らせ下さい。ホームページ、学校の進路コーナーの掲示でも御覧いただけます。

おしらせ　身体障害者更生訓練センターで新しく在宅向け入浴サービスが開始されました

秋田県身体障害者更生訓練センターで、平成２９年１２月から２つの在宅向け入浴サービスが開始されました。

○一般浴による入浴サービス

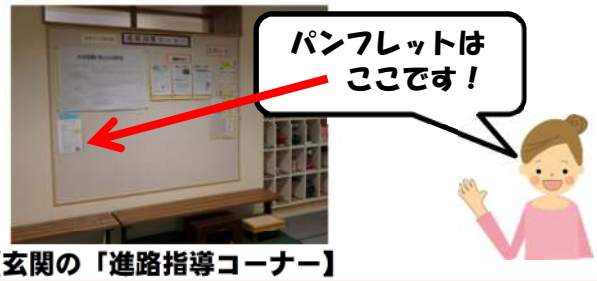
生活支援員の介助により、広い浴槽で入浴支援を行います。

○機械浴による入浴サービス

リクライニング型のシャワーチェアに乗るタイプの一人用機械浴槽（酒井医療「カトレア」）で入浴支援を行います。一般浴と同じく、生活支援員が介助します。

利用には利用契約が必要です。利用日や時間帯が設定されていますので、事業所（身体障害者更生訓練センター　℡018-863-4471 担当：支援課　羽川さん）にお問い合わせください。

詳しく知りたい方は、学校玄関の掲示板「進路指導コーナー」に事業所からいただいたパンフレットがあります。どうぞご自由にお持ちください。



【玄関の「進路指導コーナー】

小学部からの進路学習　その7「社会との関わり」

学校では、子供たちが地域社会への関心を広げ、社会生活で必要な人との関わり方やスキルが身に付くよう、校外学習や交流活動など、実際に体験する学習を大切にしています。豊富な経験は多くの場面で役に立ちます。学校だけでなく、家族と一緒に経験を積んでいくことで社会性が自然と身に付いていきます。

たとえば、こんなことにチャレンジ！

公共の交通機関を利用してみる

バス会社やＪＲに事前に連絡すると、低床バスを手配してくれたり、乗り降りを手伝ってくれたりします。

地域行事やイベントに参加してみる

地域の様子に関心をもち、地域の人と交流を深めるきっかけになります。

公共施設を利用してみる

順番を守る、静かに過ごす等、きまりやマナーを体験的に学ぶよい機会です。

冬休みの様子から　ご紹介

小学部５年　福田秋華さん

秋華さんは、冬休みに初詣とボウリングに行ったそうです。その時の様子についてお母さんにお伺いしました。

「初詣は駐車場から参拝するところまで舗装された通路がある三皇熊野神社里宮に行きました。毎年行っているので、参拝の仕方をすっかり覚えました。

ボウリングは ROUND1 に行きました。ガーターなしのレーン設定で、スロープを使い、思いきり楽しめました。」

Q&A

Q,うちの子供は左手が上手く使えません。どんなところに就労できますか。

A,就労継続支援Ｂ型事業所で働いている卒業生の中には、ほぼ片手でいろいろなことに取り組んでいる人がいます。障害の状況は様々です。事業所見学を通して、どんな障害の人がどんな仕事や活動をしているかを知ることが大切です。苦手なことばかりに目を向けず、得意な体の動きを伸ばしたり、補助具を活用したりするなどして、いろいろな経験の中で、できることを増やしましょう。